

第3回北区観光振興プラン策定検討会 議事概要

日 時	平成26年10月17日（金）18:30～20:30
場 所	北とびあ9階 902
出席者	検討会委員：13名（2名欠席）、（事務局）7名、傍聴：3名



委員長あいさつ



会議の様子



会議の様子

議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認（資料1）
4. 前回検討会のふりかえり（資料2）
5. 議題
 - (1) 基本戦略を実現するための具体施策について（資料3）
 - (2) 北区観光のリーディング・プロジェクトについて（資料3）
6. その他

配布資料

- 議事次第、配席図、観光振興プラン策定検討会委員名簿
 資料1：観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認
 資料2：第2回北区観光振興プラン策定検討会議事要旨（案）
 資料3：北区観光振興プラン（素案）第1章～第5章

主な議論内容

- ・ 観光振興プランの施策とリーディング・プロジェクトの進め方について、リーディング・プロジェクトをメインで進めることで施策を実施していくことについて了解を得た。
- ・ プロジェクト4「観光国際化プロジェクト」について、オリンピック・パラリンピックをメインとし、国際観光を進めていくこととなった。また、江戸というキーワードについては再考することになった。
- ・ 基本戦略Ⅱの施策「北区観光の核となるテーマの創出とこれに基づく観光の推進」では、テーマに地形を追加することになった。また、施策「駅周辺における観光拠点機能の充実」については、王子のまちづくりとの関連事項の記載を検討することになった。
- ・ 基本戦略Ⅳの施策「ゆかりのある地域との連携」については、連携のひとつとして、渋沢栄一ゆかりの地や王子駅に止まる高速バスの行先地域などを例示で示すことになった。
- ・ 基本戦略Ⅴの施策「国際観光の充実」については、コミュニケーションツールの必要性を迫記することになった。また、施策の「観光ボランティアガイドの充実」について、観光ボランティアガイドのレベルアップという表現を再考することになった。

1. 開会

2. 委員長挨拶

- ・ こんばんは。前回の検討会では、プラン全体の構成についてご確認いただいたが、今回はプランの内容について、ご確認いただきたい。今朝、北区と姉妹都市である甘楽町に観光まちづくりに関わっている関係で行ってきたが、災害時の来訪者の対応についての話をした。先週、台風がきたが、災害時に住民と同じように来訪者の安心・安全を確保することは、非常に重要である。しかし、多くの場合は、光の部分の議論に留まりがちである。多くの観光客を呼ぶということは、何かあった時の対応も考えなければならない。北区の観光を考えていくうえでは、そのようなことも考えていただき、本日も活発なご議論をいただきたい。

3. 観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認

- ・ 事務局より、資料1「観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認」の説明。
- ・ 内容について確認したいことはあるか。
 - (特になし)

4. 前回のふりかえり

- ・ 事務局より、資料2「第2回北区観光振興プラン策定検討会議事要旨(案)」の説明。
- ・ 発言内容についていかがか。よろしいか。
 - (特になし)

5. 議題

- ・ 事務局より、資料3「北区観光振興プラン(素案)第1章～第5章」について説明。

(1) 基本戦略を実現するための具体施策について

① 観光振興プランの評価指標について

- ・ 取り組みについての進捗評価の話は、施策のどこに盛り込まれるのか。
 - 指標については、資料3の3章の部分に、現在の数値が取得できそうな指標として、「北区観光ボランティアガイドツアー参加人数」や「北区観光ホームページアクセス数」のようなものを掲げている。

② 施策とリーディング・プロジェクトの関係について

- ・ リーディング・プロジェクトは、基本戦略1～5ごとに立ち上げるものなのか。
 - リーディング・プロジェクトについては、いろいろな施策と関わりがあるようなプロジェクトになるように検討している。施策をひとつひとつ行っていくのは大変であるので、リーディング・プロジェクトでこれらの施策をカバーできるようなかたちになっている。観光振興プランは、総花的になりがちであるので、アクションプランの要素を少し加えて、みんなで取り組んでいけるようなものを設定している。
- ・ リーディング・プロジェクトを進めることで施策を実施していくというのは、すごく良い

かたちであると思った。ひとつのプロジェクトを実施するときに、できるだけ他に関わりがあるように実施してほしい。それがプロジェクトの深堀りにもなると思う。

③（基本戦略Ⅰ）施策「多様な媒体を活用したプロモーション」について

- ・ 施策に「多様な媒体を活用したプロモーション」として、ケーブルテレビ等の活用と書いてあるが、J-COM 北としては、どれくらいコミットできるのか。また、役所は、良いことをやっているのに発信力が弱い。予算の関係で発信が遅れたり、関係課のみでしか発信されていないかたりする。もっと区と密着して、いろんな情報が交換されると良いと思う。
- テレビ事業者としては、面白いネタがあれば飛びつくのは事実である。現在は、デイリーニュースという生番組で地域話題を定期的に取り上げている。また、面白いネタについては特番を組むことができ、行政から委託を受けて番組を作ることもできる。J-COM という大きなグループになったので、J-COM 北がつくったものを J-COM ネットワークで外に広く流すこともできる。地域密着で出来る限り貢献したいと考えている。
- ・ 委託された番組については、もっと再利用されるとよいと思う。J-COM 独自の番組を役所が使えたり、街頭テレビで流したり、検索して見られるなど、再利用できればよいと思う。地域と連携ができると、プロモーションの部分が飛躍的にのびると思う。
- プロモートには J-COM 北を有効に使っていただきたい。番組は、DVD に残して、取材先に渡しているの、個々に利用してもらえるようにしている。
- ・ J-COM の北区のニュース番組は良いことやっているが、入っている人は区民の 3 割くらいであるので、役所や観光協会のような組織と一緒にやってもよいと思う。
- ・ J-COM に入っている方は番組を見るが、果たしてどれだけの方が見るのか。赤羽駅前、王子駅前、北区役所などで J-COM の番組をオーロラビジョンで流すことはできないか。姉妹都市の情報も流すとよいと思う。見るべくして、見るわけではなく、北区の発信ができるの良いのではないか。
- かなりお金もかかる話でなかなか難しい。地上デジタルが受信可能なお宅は、ケーブルテレビが見られるようになっている。

④（基本戦略Ⅱ）施策「北区観光の核となるテーマの創出とこれに基づく観光の推進」について

- ・ 施策の「北区観光の核となるテーマの創出とこれに基づく観光の推進」のテーマについて、北区の特徴には地形があると思う。武蔵野台地と東京低地が長い距離に渡って縦断しており、それに沿って鉄道が通っている。これは他の区にはなく、北区の特徴だと思っているので、入れておいていただけると良い。
- 地形の話は、非常に良い意見だと思った。先日、谷田川について話す機会があったが、みなさんに大変興味をもって聞いてもらった。谷田川が作り出した景観は、古代から現在まで遡れる。地形というのは、地形をめぐって歴史なりが読み取れることが面白いと思う。

⑤（基本戦略Ⅱ）施策「駅周辺における観光拠点機能の充実」について

- ・ 飛鳥山公園については、王子駅からのアクセスが良くない。上野駅や新百合ヶ丘駅のように、立体交差のようなものでアクセスの改善はできないか。

- ▶ 今のようなまちづくりの話に関しては、基本戦略Ⅱで「来訪者にとっての駅前利用環境の向上」を挙げており、北区の都市計画マスタープランや王子駅周辺まちづくりグランドデザインと整合を取りながら考えていきたいと考えている。
- ▶ プロジェクト2の「駅から観光プロジェクト」にも関わる話だと思う。
 - ・ 王子駅に関しては、17万人の乗降客を司る駅前広場としては、他と比べても6割くらいの広さしかない。将来乗降客数を増やすならば、それを受け入れるだけの駅前広場としての広さや、バリアフリーも実現しなければならない。プランとして、あまり他の計画との整合性は考えず、観光の観点からこのレベルまで実施しなければならない、ということを書いてしまっていると思う。

⑥（基本戦略Ⅳ）施策「ゆかりのある地域との連携」について

- ・ 「ゆかりのある地域との連携」とあるが、姉妹都市との連携だけでなく、交通のつながりでいえば、バスが直接、郡山、佐野、那須塩原に出でいたりするので、そういう地域との連携も考えられる。また、J-COMがネットワークしている場所と連携して何かできないか。J-COMになったからこそその広域ネットワークを使うとよいと思う。
- ・ つながりに関して、文士村関係で田端と馬込、渋沢栄一関係で王子と深谷など、テーマでつないでいくのも面白いと感じた。

⑦（基本戦略Ⅴ）施策「観光ボランティアガイドの充実」について

- ・ 「観光ボランティアガイドのレベルアップ」という言い回しは、今のガイドのレベルが低いようで失礼なので、再検討してもらいたい。
- ▶ レベルアップという言葉については、確かに再検討した方がよい。スキルアップやステージアップというニュアンスではどうか。

⑧（基本戦略Ⅴ）施策「北区観光推進のプラットフォームの設置」について

- ・ 施策やプロジェクトは、誰が行うかという話になると思うが、そのときに、観光ボランティアガイドのような存在が重要になってくると思う。プロジェクト1の「鐵分増量プロジェクト」で言えば、一般の方では進められないので、観光ボランティアガイドで企画をし、メディアに売り込んでもらえばよいと思う。テレビ局は常に新しい題材を探しているので、面白いプロデュースをすれば、乗ってもらえると思う。ガイドの方にリードしてもらい、鉄道事業者やバス会社などの関係団体を入れた組織にしていくべきだと思う。
- ▶ 誰が行うか、という話は、戦略Ⅴの「観光推進のプラットフォームの設置」や「観光振興サポーターの導入」の部分で示している。観光ボランティアガイドがメインで行うというより、既存のいろんな組織に会員になっていただき、中核的推進組織を立ち上げて進めていくかたちかになると思う。
- ・ 観光協会のような会を運営するとなるとお金が必要になると思う。他区でも観光協会は、独立した団体として運営しているので、北区もそうするべきだと思っている。ただ、プロデュースなどは、観光ボランティアガイドにお願いできればと思った。

- ▶ 今、東京 23 区で観光協会を設立しているのは 21 組織で、それらは 4 つのタイプに分かれる。ひとつは、観光中心のもので、上野や葛飾がそれにあたる。次は、商工業連携のもので、墨田、大田など、都市観光ならではの特徴を活かしたものが中心である。3 つめは、観光まちづくり推進型で、目黒、中野など、まちづくりを中心に新しく組織されたものである。4 つめは、行政主導型で、板橋がそうである。現在、事務局で観光協会の実態を整理しているところであるので、次回にでも、みなさんにお知らせできればと思う。
- ・ 施策のなかには、他の団体で既に動いている事項もあると思う。既に各団体で進めていることについて、今後、観光課でまとめてやるのか、それとも現在のように個別で進めていくのか。
- ▶ 実際には、観光協会のような組織が中心になって、これまでの活動を集約しつつ、リーディング・プロジェクトをメインに進めていくことになると思う。
- ・ ある部分については、観光ボランティアガイドの方に進めてもらえばよいし、それぞれ得意の分野についてプロジェクトごとに進めてもらえばよいと思う。場合によっては、外部から来てもらって、やってもらってもよいと思う。
- ▶ 誰が進めるのかという部分については、当然、観光協会は当てはまるが、他にも、プロの方とか主体がたくさんいると思う。
- ・ 今後プロジェクトを進めていく際には、観光協会を稼がせることを役所が決断することが大事である。会員の会費が、主な収入源になってしまうと、会員のための観光協会になってしまうので、施設の管理を任せるなど、稼がせることが大事である。

⑨ その他

- ・ 前回、曖昧だったものが解決して、よいプランになったと思う。ただ、この先の不安として、例えば、23 区にいろいろな商店街があるなかで、北区の商店街に来ていただけるのかと思う。プランは素晴らしいが、実際プランのようになっていくのかという不安がある。
- ▶ 一番重要であるのは、どこかが目立つと、他も頑張り、切磋琢磨するということである。例えば、田端が頑張ると、赤羽や十条が頑張るなど、広い話で捉えると大丈夫だと思う。
- ・ 公共施設をもう少し開放した方がいいと思う。お金を掛けずに、営利目的でも使える公共空間を提供できればよいと思う。特に若い人が出て来られるかたちで、オープンカフェやマルシェなどは人を集めているので、良いと思う。公共空間を使った観光ができればよいと思う。

(2) 北区観光のリーディング・プロジェクトについて

① (プロジェクト 1、2)「鐵分増量プロジェクト」、「駅から観光プロジェクト」について

- ・ 観光の目玉をつくるには、鉄道事業者や企業にも話を聞きながら進めた方がよいと思う。プロジェクト 1 の鉄道のプロジェクトやプロジェクト 2 の駅から観光のプロジェクトについては、観光協会ができたなら、関係事業者と早めに話をまとめてもらう方がよいと思う。

② (プロジェクト4) 観光国際化プロジェクト、オリンピック・パラリンピックについて

- ・ オリンピック・パラリンピックがあるので、これは、リーディング・プロジェクトに入れておいた方がよいのではないかと。経済面やいろんな方面に関わりが出てくる話だと思う。また、オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地候補の募集について、10月28日に東京都で説明会があるが、泊まる場所については、練習場の隣接地に泊まることもある。3人や4人で参加している国もあるので、そういう国をまとめて面倒みるなど、いろいろ知恵の出どころがあると思う。また、北区は障害者スポーツセンターがあるので、パラリンピックについても、密接に関わりがある。パラリンピック選手団の、キャンプ地という可能性もあり、福祉という切り口もある。
- これは区のプランであるので、オリンピック・パラリンピックは、他の課との関係もあり、強く打ち出せなかったのではないかと推察するが、プロジェクト4の「観光国際化プロジェクト」では弱いということだったと思う。パラリンピックが開催できるのは、成熟した国の表れであるので、パラリンピックを盛り上げられる地域として、北区は福祉のまちを目指すということも考えられる。
- ・ オリンピック・パラリンピックについては、今後、外国人観光客が増えると、商店街の側からのコミュニケーションが必要になる。賞味期限などの簡単な会話も満足にできないので、商店街に、外国人観光客の対応についてのテキストのようなものを配布していただきたい。そのような地盤作りが必要だということも、プロジェクトのなかに入れてもらいたい。

③ (プロジェクト4) 観光国際化プロジェクトについて

- ・ プロジェクト4の「観光国際化プロジェクト」について、ワークショップでの意見かもしれないが、「江戸をアピール」というのは、どうもピンと来ない。北区は、江戸というよりは、昭和だと思う。渋沢栄一の晩香廬(ばんこうろ)や赤羽シルクロードなどは、まさにそれである。北区の産業遺産はみんな昭和であるし、外国人にとっても昭和は新鮮だと思う。
- 区議会では、北区には江戸につながる資産があるとか、紀州と交流協定を結んではどうか、という話がときどき出くるため、今回江戸というキーワードを入れた。
- 区のなかで江戸がキーワードになるのではということで、飛鳥山の桜を含め、江戸文化というところを北区の売りとしていこうと考えた。
- ・ 北区で本当の江戸を復活させるのは、すごくお金がかかると思う。江戸もいいと思うが、よその人が見に来るほどの江戸ではない。
- ・ 北区のなかで一番江戸に近いのは、王子と飛鳥山である。また、北区の江戸は、時代小説のなかによく出てきている。当時の浮世絵を見せながらガイドすると、お客さんはものすごく喜ぶ。
- 北区の江戸を喜ぶのは、どちらかというと日本人である。外国人は江戸を良く知らないため、説明するのに苦労し、結果として、侍、ちょんまげのような曲がった認識になり、観光地としても嘘のものを作りあげることになる。そうすると、本来北区が目指しているものとは真逆のものになってしまう。外国人も国や訪日回数によって一括りにはできないが、

外国人に分かってもらうのは難しいと思う。プロジェクトとして打ち出すのは、再検討した方がよい。

- ・ 江戸がリーディング・プロジェクトになり得るかということである。観光ボランティアの活動として突き詰めるには、江戸はすごくいいテーマだと思う。
- ▶ 江戸をテーマとした観光は、墨田、大田でもやっている。江戸は、大きなプロジェクトとして打ち出さず、文学の中に見る風景を迫体験というテーマとして使うほうがよい。プロジェクト4の観光の国際化については、メインをオリンピック・パラリンピックにして、そのために、観光の国際化をするということにしてはどうか。
- ・ 他府県からは、昭和レトロが残っているまちなみとして、北区を訪れる。梶原商店街も鎌倉往還の古い道であるが、ガイドにあのあたりも加えていただければと思う。

④（プロジェクト5）北区観光サポート体制づくりプロジェクトについて

- ・ 5つのプロジェクトについて、それぞれ関わり合う部分があると思うので、上でそれを捌く組織が必要だと思う。観光協会は後付けで、プロジェクトを進める組織が必要ではないか。
- ▶ そのために、できるだけ早く中核的組織を立ち上げ、これらのプロジェクトを進めていく必要がある。順番からすると、プロジェクト5の「北区観光サポート体制づくりプロジェクト」を先に進めなければいけない。

(3) 総括

- ・ 基本戦略の大枠については前回ご確認いただいていたが、今日は、リーディング・プロジェクトをメインで進めて施策を実施していくことについてご理解いただいた、ということですよと思う。そのなかで、プロジェクト4「観光国際化プロジェクト」については、オリンピック・パラリンピックをメインに出して国際観光を進めていくという案を検討会として提案することになった。また、施策の中身について、基本戦略Ⅱの施策の「北区観光の核となるテーマの創出とこれに基づく観光の推進」では、北区にとって地形は重要な事柄なので、実施事例のなかにきちんと位置づけていくこととしたい。また、施策の「駅前周辺における観光拠点機能の充実」については、王子のまちづくりとの関連で、現在の駅前広場の大きさ、駅の利用実態と比較して、例えば、われわれが目指す駅の規模を例示してもよいと思うので、事務局にご検討いただければと思う。また、基本戦略Ⅳの施策の「ゆかりのある地域との連携」については、姉妹都市との連携とともに、テーマでつないでいく連携を進め、そのなかのひとつとして、渋谷栄一やバス路線、J-COM の話を例示というかたちで出しておいていただければと思う。基本戦略Ⅴの施策の「国際観光の充実」については、コミュニケーションツールの話が必要になるので、事例として加えていただければと思う。また、施策の「観光ボランティアガイドの充実」について、観光ボランティアガイドのレベルアップという表現をスキルアップ、ステージアップというものに変えていただければという話があった。以上が本日の主な内容だったと思う。次回は、パブリックコメントに出す前の観光振興プランの素案として、5章、6章の部分を書き込んだかたちでお示ししていただく。来週、ワークショップを開催し、プランのスキームをお示しし

たうえで、プロジェクトのテーマについてご提案いただく予定である。ワークショップには、魂の熱い人が多くいらっしゃるので、今後の中核的推進組織の組成に向けて、手伝ってもらえるような雰囲気になることを期待している。そうすると、組織体として早く立ち上がることをバックアップしてもらえと思う。他の自治体の観光協会の現状については、次回以降、みなさまにご報告させていただきたい。

➤ (一同了承)

- ・ 前回、仮置きさせていただいたプランの将来像について、副題については、区民向けのニュアンスが強く、将来像になじまないということで、今回は削除させていただいている。様々ご意見をいただいている途中であるので、今回はこの状態でご了承いただきたい。(事務局)
- ・ 将来像について、現在の状態で仮置きにしておき、次回決定というかたちでよいか。

➤ (一同了承)

6. その他

- ・ 事務局より、次回第4回検討会の案内、閉会。

以上